

# ハチ博士の ミツバチコラム

26



京都学園大学  
バイオ環境学部  
坂本文夫教授

## イタドリ

夏の終わりから初秋にかけて咲く蜜源植物にイタドリがあります。花自体は小さいのですが、多数の花が密生し、草丈が2メートル以上になることもあるために蜜量が多く、

ミツバチ以外にも多くの昆虫が集まる花です。林の陰や川べりなどの湿気の多い場所に育ち、若芽はスカンポとしておなじみです。小さい頃、よく皮をむいてかじったものですが、思い出すと唾液が湧いてくるほど酸っぱい味でした。スカンポの酸味はシュウ酸という有機酸で、さらせば

歯触りの良い山菜として人気があります。サッと茹でて胡麻和えにしたものはお酒のあてにも最適です。また、イタドリという和名の由来は、葉を揉んで傷に当てると止血して、痛みをとる所から来ているそうです。

しかし、私達にも昆虫にも好かれているイタドリにはもう一つの顔があります。実は、イタドリは世界の侵略的外来種ワースト100に選定されている嫌われものなのです。19世紀に観賞用として日本から英国に持ち込まれたイタドリは、旺盛な繁殖力で在来種を脅かし、更にコンクリート

やアスファルトを突き破り、道路をデコボコにしているのだそうです。道路の補修や繁殖防止に年間250億円もの費用がかかるために、英国政府はイタドリに寄生して枯らす天敵の「イタドリマダラキジラミ」を日本から輸入することになりました。持ち込まれた天敵が、生態系全体に影響を与えて大問題になることがあります。今回はそのようなことが起きないように願うばかりです。



イラスト おおくほひとみさん